

令和3年度 小規模多機能型居宅介護 よりそいホーム 総括表

法人名	社会福祉法人 秋桜会	代表者	三島木 健	法人・ 事業所 の特徴	職員と利用者が「介護する側、される側」という関係ではなく、共に過ごす時間を大切に、今「何に困っているのか」に着目して支援している。小規模多機能型居宅介護のメリットが十分に活かすことができるよう一人ひとりの生活に合わせた柔軟なサービスを提供している。訪問では安否確認、配食、清掃等、必要な支援を見極めて援助している。
事業所名	よりそいホーム	管理者	筒井 慈子		

書面開催	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・ 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	5人	0人	0人	人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目についての理解にバラつきがあるので、ポイントを絞った解説を全職員対象に行う。 技能実習生には日本語の内容をかみ砕いて説明を再度しながら、回答に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めて取り組む職員には個別にポイントを解説した。 技能実習生は入院中のため実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 初期支援の取組みとして「気づきシート」を活用し、情報共有するのはよいと思う。 参集の困難な日常の環境の中でご利用者の立ち場を第一と考え、主体的に活動し、協働、連携の姿勢を強化して取り組もうとされていることに敬意を表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価でできていない点について具体的にどのようなことが不足しているか各自で考察し、次年度の取組みに活かす。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大予防への対策を引き続き実施する。 空き時間を活用して、日頃の清掃を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策を継続して行い、感染者ゼロで過ごすことができた。 換気、消毒等が利用者も職員も日常の習慣になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な消毒、換気、細部にまで気配りをして感染対策に取り組み、安心した環境の中で過ごされていると思う。 治療薬が開発されコロナ感染症が収束すれば、家族や地域の方が事業所に入りやすくなると思う。 換気できる空調や除菌できる空気清浄機の導入により、職員の負担が軽減できるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染拡大予防の対策を継続する。 老朽化に伴う不具合に対して、計画的に修繕が必要な部分を見極め改善していく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> コロナが収束し規制緩和がなされた時は地域と協力して行事等を開催する。 地域の方には必ず挨拶をするなど今できることを行い信頼関係が築けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で交流は困難な状況だが、地域の方々には明るく、積極的に挨拶をするなどできることを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 評判がよいからこそ相談者が増えているのだと思う。 日常の挨拶等の積み重ねが信頼関係を作り、事業所と地域との深いかかわりになっていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の時代に合わせたPR法を考え、小林・本埜地区の住民に対して、「よりそいホーム」を知っていただく機会を設ける。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防を徹底しながら、外出等の気分転換を行うとともに、ウッドデッキの活用を計る。 コロナが収束したあとを見据えて、新たな地域のニーズを把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防をしながら、外出する機会を多く設けた。 ウッドデッキに花や野菜を植えたり、車いすの方でも気分転換できるように環境づくりに努めた。 地域包括支援センターとのよい関係性により、新規利用の相談件数が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動が制限される中、工夫して季節ごとの花見等のドライブや近隣での散歩など外出する機会を作られていることは利用者の楽しみであり、生活に活気をもたらしていると思う。 コロナ禍なので地域のかかわりは難しいので、幹部クラスの方が関係機関に定期的に挨拶廻りをする。 老人会（第四長寿会）から相談している。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集を行い、コロナ禍の影響や動向をみながら、少しずつ地域参加に向けた活動を検討する。 交流が途絶えてしまった関係機関と、感染症対策に配慮した上で交流する機会を確保する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 集合式で実施の場合は密を回避しながら、活発な発言ができる形を検討する。 地域の情報収集を行うとともに、小林地区の地域資源の活用を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 書面開催が続いたため、わかりやすい資料づくりを心がけたが、文書のため報告が主となった。 各委員からの意見や感想を次年度へ活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書面ながらも詳細な資料のおかげで有意義な意見交換ができた。 コロナ感染症蔓延前の集合式会議では、事業所の取組みで不明なことは直ぐ質問できたが、書面開催では些細なことは記載しにくいと、不明のままである。 認知症ケアパスについては、近隣の方からの問い合わせに非常に役に立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 書面開催では活発な意見交換が難しいため、可能な限り参集形式で実施していく。 コロナ禍で見えてきた新たな課題などをテーマにして、皆さんからの客観的な意見をいただく。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> コロナが収束し規制緩和がなされた時は地域の方へ訓練の参加を呼びかけていく。 災害時の地域の避難場所としてできることがないか検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各災害を想定した訓練は事業所内で実施したが、外部の方の出入りの制限があるため、地域住民や運営推進委員の防災訓練の参加、見学が実行できなかった。 地域の防災委員から情報収集した。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で各種イベントが中止される中、防災訓練が実施できたのは普段から防災訓練を行っている結果だと考えられる。 災害の時、自分たちの事で手いっぱいなのでとても頼りにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な制限が緩和された時には運営推進委員の方々、地域住民に訓練の参加を呼びかけていく。 消防署の協力を得て、コロナ禍を想定した防災訓練の方法等を検討する。